

目的

- 対話場面において、
交替潜時(一方の人が話し終わってから次の人が話し始めるまでの時間間隔)の長さが類似することが知られている。
- しかし、相手の交替潜時と類似するかどうかには顕著な個人差がある。その個人差の原因となる個体特性を追究することにより、交替潜時の対話者間類似がコミュニケーションにおいて果たす役割を推測することができると考えられる。
- 予備的実験で、相手に応じた交替潜時の調整と社会的スキルの関連が示されたが、予備的実験は刺激の操作・統制の不十分さなどの不備がいくつかあった。そこで、本実験ではこれらを改善する。

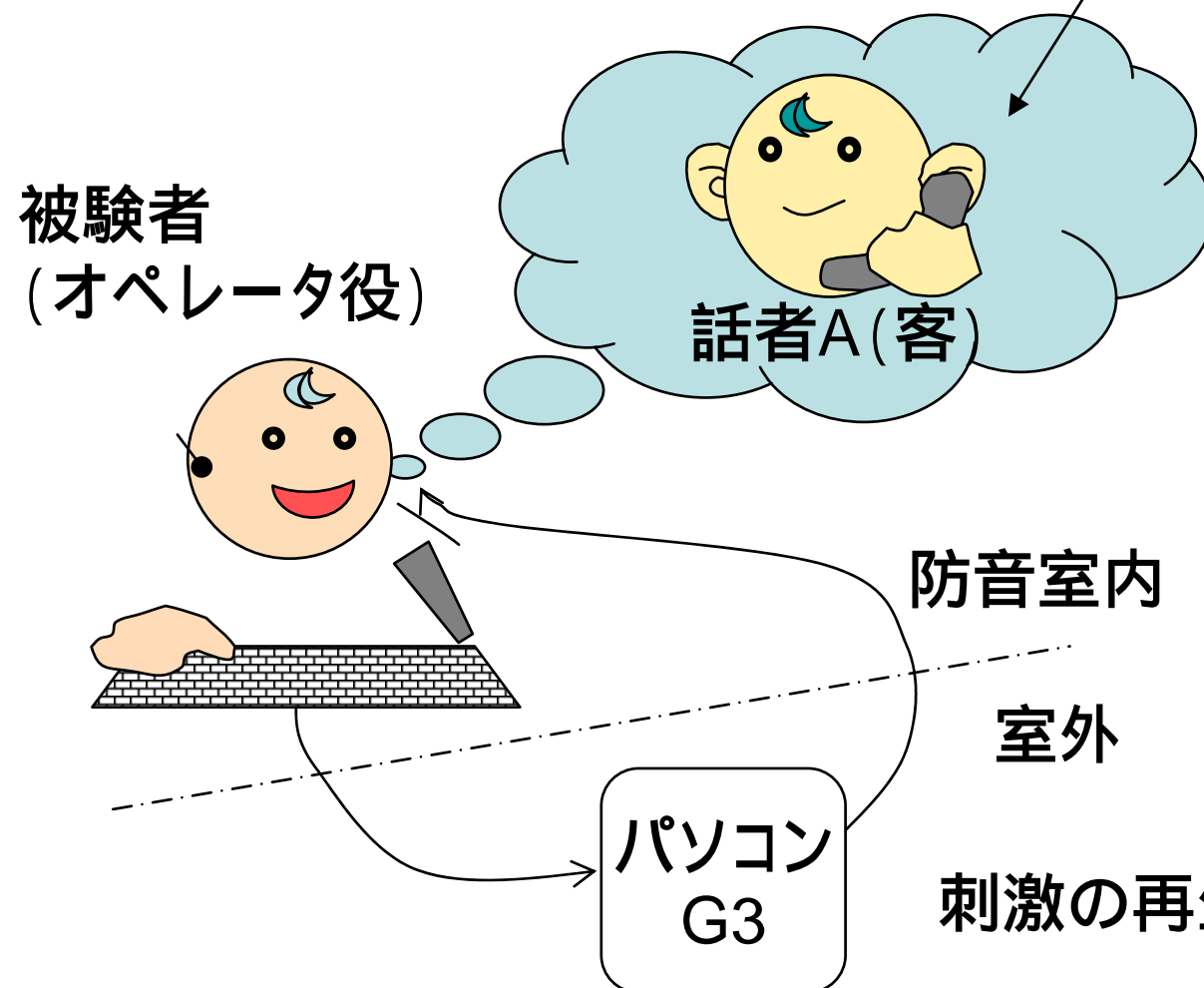
□ 本研究の目的

社会的スキルが交替潜時の用い方に及ぼす影響を検討する。

方法

- 被験者は大阪大学学部生・大学院生計16名(男7名,女9名)。

- アナウンス経験等を持たない男性に演じさせ、音声を録音し、発話部分のみを刺激音声(話者A)として用いた。



1モーラあたり平均的長さが,120msecになるよう波形編集ソフトで編集した。

□ 台本および実験の流れ

話者A(客)	台詞No.	被験者(オペレータ)
		(エンターキーを押す.)
小林ユウです	A ₀	
	Sub ₁	小林ユウ様ですね
はい	A ₁	
	Sub ₂	商品名おねがいします
コーナーボード	A ₂	
	Sub ₃	コーナーボード
はい	A ₂	
...
	A ₁₅	
	Sub ₁₆	(1試行終了)

質問

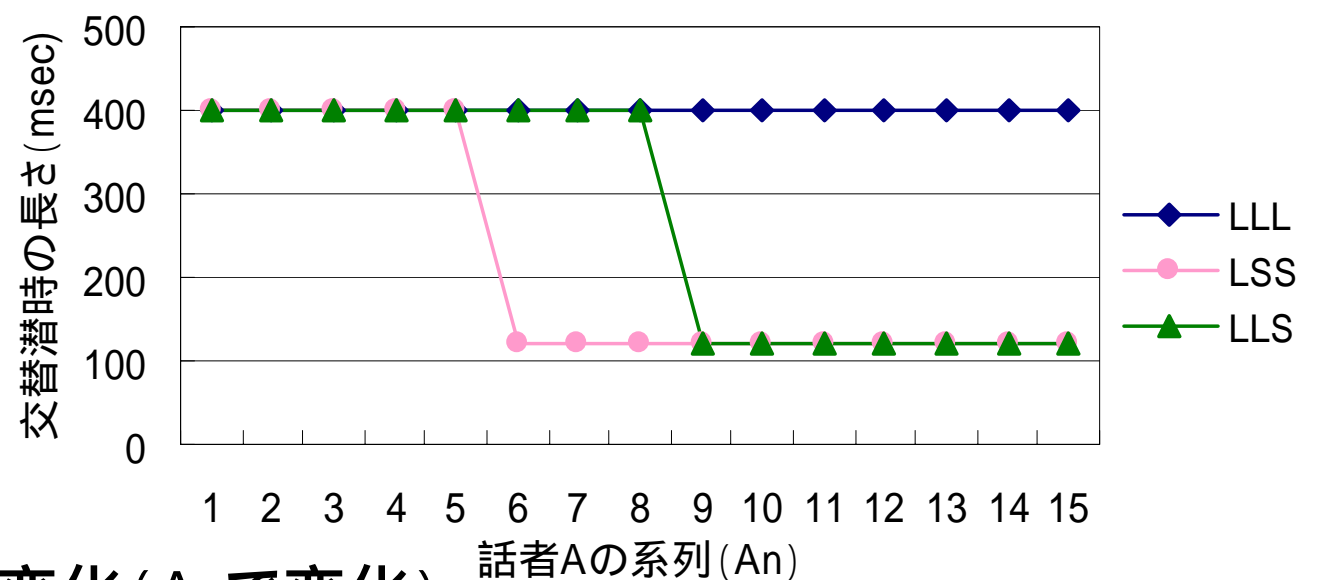
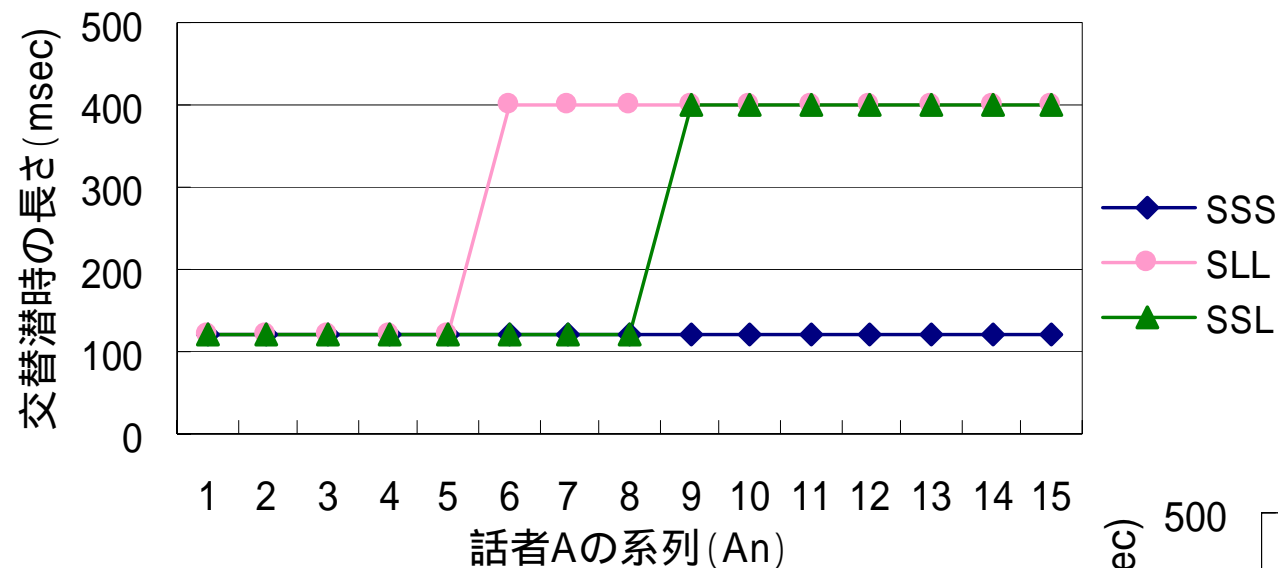
答え

復唱

Yes反応

□ 話者Aの交替潜時の操作

- SSS条件:「短い=120msec」で一定
- SLL 条件:「短い」から「長い=400msec」へ変化(A_6 (答え)で変化)
- SSL条件:「短い」から「長い」へ変化(A_9 (Yes反応)で変化)



- LLL条件:「長い」で一定
- LSS 条件:「長い」から「短い」へ変化(A_6 で変化)
- LLS条件:「長い」から「短い」へ変化(A_9 で変化)

練習試行6回した後, 本試行6回. 6条件をランダム順で呈示した.

結果

□ 社会的スキルの程度による被験者群わけ

- ENDE2の記号化と解読の合計得点の平均29.2点 (SD=5.7)を基準とし, 被験者を社会的スキル高群(8名)および低群(8名)とに分類した.

□ 話者Aの交替潜時の変化に対する反応

- SSS条件とSLL条件の比較および
- LLL条件とLSS条件の比較から、
社会的スキル高群

対話の最初、かつ
意味内容のまとまりの最初(答え)
での変化

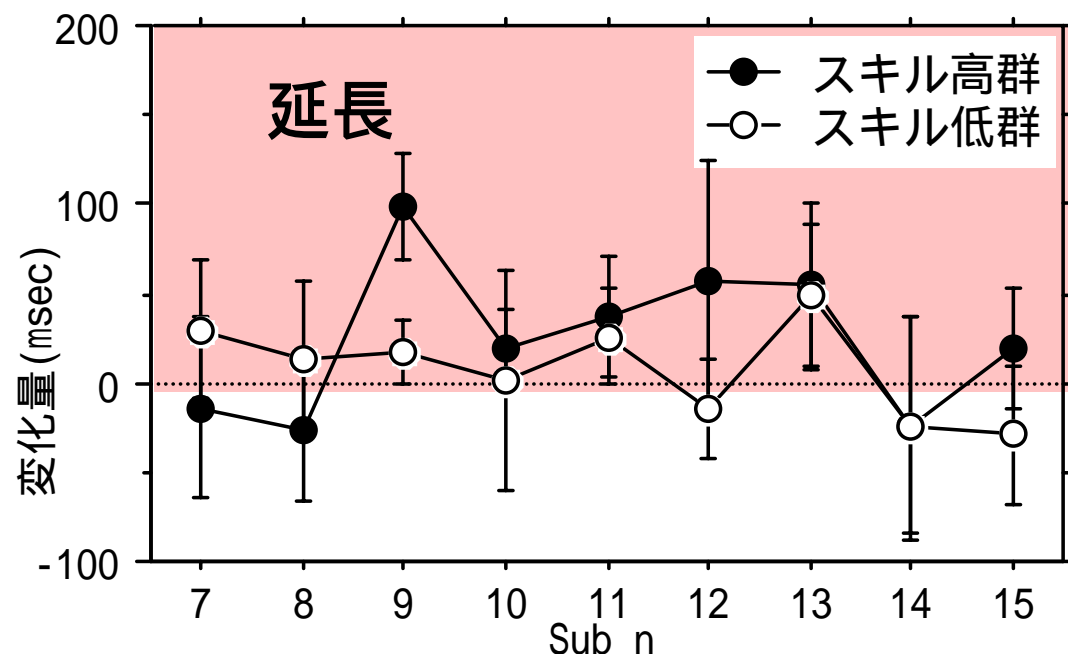
交替潜時は話者Aの交替潜時が変化したのと同じ方向に変化する。

社会的スキル低群

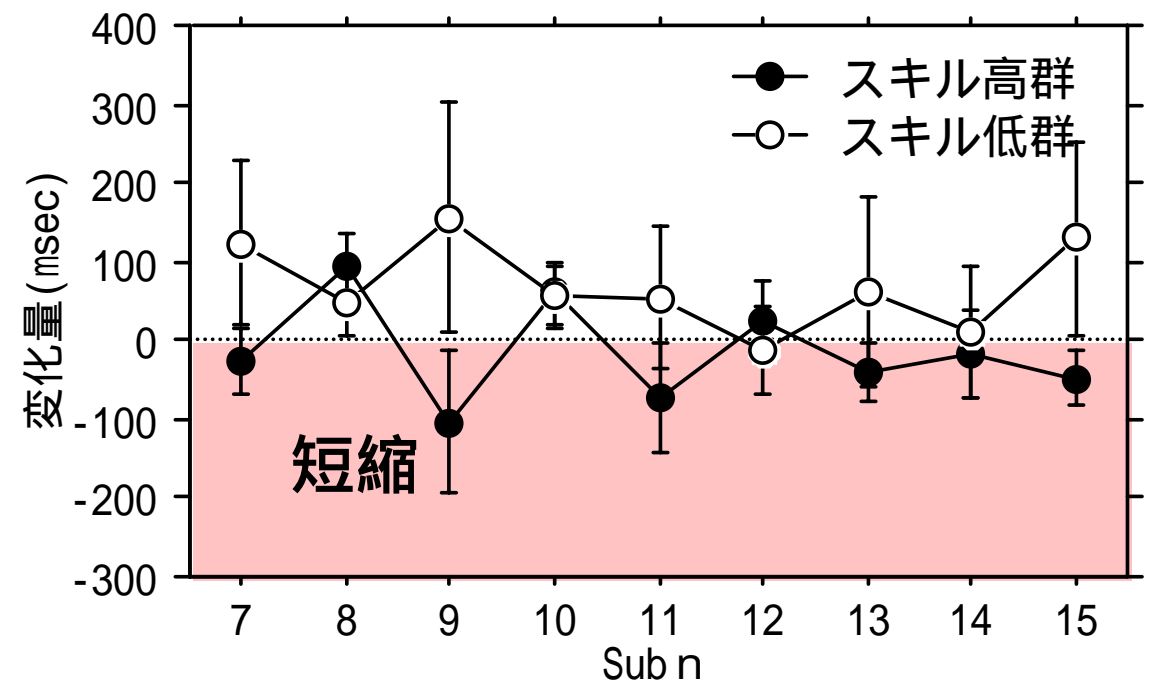
話者Aの交替潜時が変化したのと同じ方向に変化するが、スキル高群に比べると延長の程度が小さい、または、話者Aの交替潜時の変化とは逆方向に変化。

これらの結果は予備的実験結果とほぼ一致。

(SLL条件) - (SSS条件)



(LSS条件)-(LLL条件)



- SSS条件とSSL条件の比較および
- LLL条件とLLS条件の比較から、
社会的スキル高群

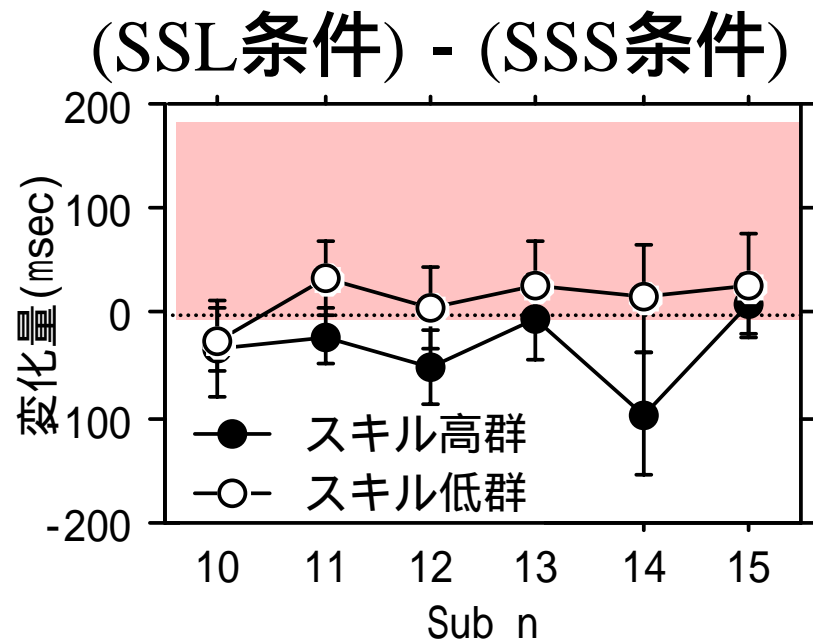
対話の後半、かつ
意味内容のまとまりの途中(Yes反応)
での変化

交替潜時は話者Aの交替潜時が変化したのと逆方向に変化。

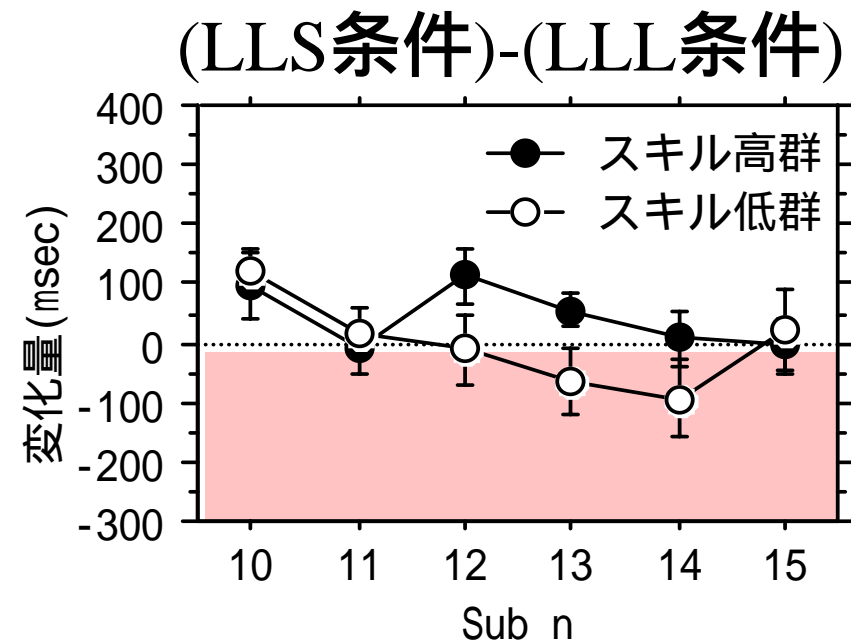
社会的スキル低群

話者Aの交替潜時が変化したのと同じ方向に変化するが、変化の程度は小さい。

予備的実験、および上の結果と矛盾。結果の相違は、話者Aの交替潜時の変化時点の相違(対話の最初のほうvs.終わりのほう、または、「答え」vs.「Yes反応」)によるのか？



延長



短縮

考察

- 社会的スキル高群の、対話の後半かつ意味内容のまとまりの途中(Yes反応)で見られた相手の交替潜時の変化とは**逆方向への変化**について。
 - そこまでの対話のテンポを保つための調節か？
 - スキル高群のコミュニケーションにおける時間感覚の感性を示唆。
 - 円滑な人間関係を築き維持することと、コミュニケーションの時間的側面との関連？

- 社会的スキル高群の、対話の最初かつ意味内容のまとまりの最初(答え)で見られた相手の交替潜時の変化と**同方向への変化**について。
 - 相手の交替潜時の変化と同じ方向に自らの交替潜時を変化させるならば、結果として交替潜時の2者間類似がもたらされると考えられる。
 - 円滑な人間関係を築き維持することと、対話者間で交替潜時の長さが類似することとの関連？

- 本結果と予備的実験の結果との矛盾、本結果内の矛盾を説明する解釈が必要。

研究の意義と今後の課題

□ 研究の意義

- 対話の時系列的分析.
- 社会的スキルの程度による
周辺言語情報の用い方の相違に関する検討.

これまであまり定量的に検討されなかった.

- 新しい実験方法の提案.
被験者の反応にあわせながら対話を成り立たせる方法.

□ 今後の課題

- 音声対話における交替潜時の役割
- 音声対話における発話行動の相互依存性

2者対話における 発話時間パターンの類似 ～ 社会的スキルの程度による相違～

長岡千賀 小森政嗣* 中村敏枝

(大阪大学大学院人間科学研究科 *広島国際大学人間環境学部)

key words: 対話, 同調傾向, 交替潜時